

50th Anniversary

Faculty of Engineering
Tottori University

鳥取大学工学部 創立 50 周年記念事業
「工学部育英基金」募金趣意書



鳥取大学工学部 創立 50 周年記念事業 「工学部育英基金」募金趣意書

50th Anniversary

Faculty of Engineering Tottori University

鳥取大学工学部は昭和 40 年(1965 年)4 月に山陰地方初の工学部として創立され、平成 27 年(2015 年)に創立 50 周年を迎えます。この半世紀の間、鳥取大学工学部の教育・研究に対し、温かいご理解とご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

私たちは、これまでの半世紀にわたる研究実績のもと教育・研究の発展・充実に努め、次の 50 年先には、さらに進化した鳥取大学工学部として創立 100 周年を迎える所存でございます。研究面では、次世代の多様な社会ニーズへの対応に向けた新たな学術分野として、医工学、農工学、地域工学などの融合型研究を展開し、多くの世界的な研究成果を創出することにより産業界の発展に貢献してまいります。また、教育面では、今後とも技術者養成教育の量と質の向上化を図るとともに、鳥取大学工学部から次の世代を担う、世界で活躍できるグローバルマインドを持った優秀な工学系人材の輩出を継続的に実践遂行することを目標に邁進する所存でございます。

現在、鳥取大学では国外の大学における短期語学研修や長期の海外研修派遣、さらには数ヶ月～1 年の研究研修プログラムといった海外派遣制度を設け、グローバル教育の機会を学生に提供してきています。工学部の学生の参加人数は年々増加してきていますが、それでも奨学制度の制限から年間で 40 名程度が現状であります。これらの海外派遣制度は全ての学生に参加機会が与えられるべきものですが、公的機関からの奨学制度には限界があります。

この度の皆様からの募金による「工学部育英基金」は、グローバル教育としての海外派遣のための経済的支援制度をできる限り多くの鳥取大学工学部の学生に提供することを目的としています。また、科学立国としての我が国の工学分野では、高度専門教育のもとで医工学、農工学、地域工学など融合型研究を通じて多分野横断的視野とテクノロジーを実践的に駆使できる博士後期課程の学生への社会ニーズも大いにあります。現在、本学部博士前期課程の修了生においては経済面を理由に博士後期課程への進学を断念し、就職する者が毎年のようにおります。「工学部育英基金」は、そのような学生の博士後期課程就学支援としても活用させていただきます。なお、皆様からの募金の一部は 50 周年記念誌発行や記念式典等にも使用させて頂く予定です。

関係の皆様におかれましては、厳しい経済状況の折り誠に恐縮に存じますが、「工学部育英基金」の趣旨をご理解、ご賛同いただき、格別のご支援とご協力を賜りますよう、衷心よりお願い申し上げます。

平成 26 年 11 月吉日

鳥取大学工学部創立 50 周年記念事業委員会委員長
鳥取大学工学部長／大学院工学研究科長
河田 康志（発起人代表）



募金の名称／「鳥取大学工学部育英基金」

募金目標額／7,000 万円

募 金 額／(1)個人の場合 一口 5 千円

(2)法人の場合 一口 10 万円

募集期間

平成 26 年 12 月～
平成 28 年 3 月末

※できましたら複数口のご協力をお願い申し上げます。また、
一口未満のご寄附もありたく拝受いたします。

頭 彰／ご寄附を賜りました方は、芳名録を作成し永くとどめさせていただきますとともに、ご承諾をいただければホームページにご芳名、法人名等を掲載、また、ご寄附の額に応じて次の顕彰等をさせていただきます。

- 50 周年記念誌の贈呈(寄附金額が、個人 2 万円以上、法人 10 万円以上)
- ご芳名、法人名等を刻印した銘板を作成し、工学部構内に顕彰
(寄附金額が、個人 5 万円以上、法人 50 万円以上)

50th Anniversary

Faculty of Engineering
Tottori University



募金方法、税制上の優遇措置を含めて、下記の鳥取大学工学部創立 50 周年記念事業ホームページに掲載しています。
是非一度、ご覧下さいませようお願い申し上げます。 <http://eng.tottori-u.ac.jp/>



鳥取大学工学部 50 年の歩み

鳥取大学工学部は、昭和 40 年代当初に機械工学科、電気工学科、工業化学科、土木工学科の 4 学科で発足しました。その後大学院修士課程の新設、学科の増設、大幅な学科の発展的改組、そして大学院博士課程の新設を行い、平成 7 年には現在の機械工学科、知能情報工学科、電気電子工学科、物質工学科、生物応用工学科、土木工学科、社会開発システム工学科、応用数理工学科の 8 学科体制となり、学部学生定員合計 450 名、博士前期課程学生定員 153 名、博士後期課程学生定員 21 名を有する規模となりました。学部学生、博士前期課程・後期課程の大学院生を合わせ、この半世紀で約 2 万人の卒業生・修了生が鳥取県をはじめ日本全国及び世界に巣立っており、工学系の様々な分野での中核的人材として活躍しています。

本学部の強みは、昨年度に文科省の指導のもとで全国国立大学法人における工学分野のミッション再定義で確認された、「伝統的工学と他の学問分野の成果を課題解決のため融合利用する総合学としての工学教育を実施している」とことと、「附属の 5 つのセンターを有する」ことです。すなわち、教育面では従来の伝統的工学分野に立脚しつつ、時代のニーズに即した幅広い工学系人材養成を強力に推し進めてきています。一方、研究面では、「ものづくり教育実践センター」、「電子ディスプレイ研究センター」、「地域安全工学センター」、「グリーン・サステナブル・ケミストリー研究センター」、「先端融合研究センター」が多岐多様にわたる工学系分野の中心的研究を担っています。

平成 27 年 4 月 1 日には、本学部のミッションの強みを十二分に活かし、激変する時代のニーズや社会の要請にさらにタイムリーに応えるため、現在の 8 学科を再編成し、次世代の工学系人材が養成できる新しい機械物理系学科(定員 115 名)、電気情報系学科(定員 125 名)、化学バイオ系学科(定員 100 名)、社会システム土木系学科(定員 110 名)という 4 学科に刷新します。この学科再編のキャッチフレーズは、「未来の工学(研究)、わかる工学(教育)、役立つ工学(実践)」です。



〈写真上〉昭和 46 年当時の工学部棟建設風景
〈写真下〉現在の工学部棟



History

－鳥取大学工学部 50 年沿革－



昭和 40 年 4 月 工学部創設
機械工学科・電気工学科の設置

昭和 41 年 4 月 工業化学科の設置

昭和 42 年 4 月 土木工学科の設置

昭和 43 年 4 月 電子工学科の設置

昭和 47 年 4 月 生産機械工学科の設置

昭和 50 年 4 月 資源循環化学科の設置

昭和 55 年 4 月 海洋土木工学科の設置

昭和 60 年 4 月 社会開発システム工学科の設置

平成 元 年 4 月 既設の 9 学科を 7 学科へ改組

(改組後)←

機械工学科・知能情報工学科

電気電子工学科・物質工学科

生物応用工学科・土木工学科

社会開発システム工学科

平成 7 年 4 月 応用数理工学科の設置により
現在の 8 学科体制

平成 27 年 4 月 既設の 8 学科を 4 学科へ改組

(改組後)←

機械物理系学科

電気情報系学科

化学バイオ系学科

社会システム土木系学科



鳥取大学工学部【鳥取キャンパス】

〒680-8550 鳥取市湖山町南4丁目101

創立 50 周年記念事業募金事務局

TEL 0857-31-5185 FAX 0857-31-5187

E-mail : en-50th@adm.tottori-u.ac.jp

○鳥取大学前駅から徒歩 3 分 ○鳥取駅からタクシーで約 15 分